

天皇杯・皇后杯 2026 年全日本卓球選手権大会 (ジュニアの部) 広島県予選【1・2 次予選】

競技上の注意

審判長 大崎 剛

1. 適用ルールについて

- (1) 現行の日本卓球ルールを適用することを原則とする。
- (2) 公認のユニフォームを着用し、2025年度の日本卓球協会登録のゼッケンをつけること。
- (3) 使用球は「VICTAS VP40+」のみとする。
- (4) タイムアウト制を採用する。1 マッチにつき 1 回 1 分以内のタイムアウトを取ることができる。
- (5) アドバイザーのベンチ入りを認める。

ただし、アドバイスについては次のことを厳守すること。

- ・ゲームとゲームの間およびタイムアウトの時のみに限る。
- ・時間は 1 分以内である。

2. 進行について

【1 次予選(トーナメント戦→リーグ戦)】

- (1) トーナメント戦でベスト16決定まで行う。進行はできるところまでベンチコール方式で行っていく。
ベンチコール方式とは事前に選手を集めて揃った対戦から試合を行うやり方である。
試合順は、男子 1 回戦→女子 1 回戦→女子 2 回戦→男子 2 回戦→女子 3 回戦→男子 3 回戦…と進行していく。
- (2) ベスト16決定後 4 人×4 ブロックの 1 次予選リーグ戦を行い、上位2名が2次予選リーグ戦に進出できる。
- (3) 1 次予選リーグ戦の試合順は同じ所属の対戦があればそれを優先する。

【2次予選(リーグ戦)】

- (1) 1 次予選を通過した男女各8名によるリーグ戦で上位3名を決定する。
- (2) 1 次予選リーグ戦の試合結果(男女各4試合分)を採用する。
- (3) 試合順は同じ所属の対戦があればできるだけそれを優先する。

3. 審判について

【1 次予選(トーナメント戦→リーグ戦)】

- (1) トーナメント戦の第 1 試合の審判は、男子32シードまでの選手と女子8シードまでの選手の40名で行う。
以後、敗者審判とする。
- (2) 1 次予選リーグ戦は、出場選手の所属から審判員を依頼し、できるだけ他の所属選手の対戦の審判を行う。

【2次予選(リーグ戦)】

出場選手の所属から帯同審判員を依頼し、できるだけ他の所属選手の対戦の審判を行う。